

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名						
柔道整復学8						
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名			実務経験
柔道整復学科・昼間部	2年	1期	住吉 泰之			○
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10
科目概要						
この科目では、年齢特有の外傷であることがとても重要である。 身近な家族、親族のなかにもケガを負ってしまった事例があるかもしれない。 そんな場面を想定して、いざ治療現場でしっかりと向き合うためにも注意深く学んでほしい。						
目標						
一般目標 (GIO) 本講義を学習することで達成されるべき目標		損傷することによって手の機能を大きく損なうことが予想される 前腕部を専門的知識として柔道整復学・理論編の各論から 「肘関節部の損傷、橈骨遠位端部骨折」を習得する。				
到達目標 (SBO) 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格率)		<ol style="list-style-type: none"> 1. 肘関節後方脱臼の発生機序を理解し、転位・整復固定・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 2. 肘関節前方脱臼の発生機序を理解し、後方脱臼と相違点を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 3. 肘関節側方脱臼を理解し、転位・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 4. 橈骨頭脱臼と合併骨折の難治性、合併神経損傷を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 5. 肘関節靭帯損傷の好発する靭帯を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 6. 野球肘の3パターンの発生機序を理解し、各損傷部位を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 7. テニス肘の発生機序、重要筋を理解し、検査法を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 8. 手関節の解剖学的に構成する骨・筋・脈管・神経が選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 9. コーレス骨折の発生機序を理解し、転位・整復固定・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 10. スミス骨折の発生機序を理解し、コーレス骨折との相違点、転位・整復固定・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 11. パートン骨折、ショウファー骨折の部位と発生機序を理解できる。 12. 橈骨遠位骨端線離断の発生機序を理解し、転位・整復固定・合併損傷を選択肢から正しいものを選ぶことが出来る 				
履修に必要な予備知識や技能						
人体の基本構造を学習した「解剖学」 柔道整復の基礎学習した「柔道整復理論・総論」						
教科書・参考書						
柔道整復学・理論編 改訂第6版(南江堂):教科書として使用 柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂):参考書として使用						
受講上の注意						
筆記と反復学習を怠らないこと。 教科書内容を理解するためには読めない漢字を必ず調べたり尋ねたりしていくこと。						
成績評価方法						
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他
評価割合(%)	100					(合計) 100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物	
第1回	履修範囲確認、D.肘関節の脱臼①a後方脱臼 b前方脱臼 【肘関節後方脱臼と前方脱臼 弾発性固定、整復固定の理解】			279-287 304-313	教科書 筆記用具	
第2回	D.肘関節の脱臼①c側方脱臼②橈骨頭脱臼 【肘関節側方脱臼の転位、橈骨頭脱臼の合併症の理解】			282	教科書 筆記用具	
第3回	D.肘関節の脱臼③(肘内障) 【幼少児特有の外傷である旨の特徴の理解】			283	教科書 筆記用具	
第4回	E.肘関節部の軟部組織損傷①側副靭帯損傷②野球肘 【好発する靭帯の理解、野球肘3パターンの区別】			284-286	教科書 筆記用具	
第5回	E.肘関節部の軟部組織損傷③テニス肘④バンナー病 【テニス肘検査法の理解、バンナー病の発生特徴の理解】			286-287	教科書 筆記用具	
第6回	2-6.手関節部の損傷A.解剖と機能 【手関節の骨・関節・筋・脈管・神経の把握】			304-306	教科書 筆記用具	
第7回	B.前腕骨遠位端部骨折 a.コーレス骨折 【高齢者4大骨折である骨折の転位・整復固定の理解】			306-308	教科書 筆記用具	
第8回	B.前腕骨遠位端部骨折: a.コーレス骨折 b.スミス骨折 【スミス骨折とコーレス骨折の異なる点の理解】			308-310	教科書 筆記用具	
第9回	B.前腕骨遠位端部骨折 c.パートン骨折 d.ショウファー骨折 e.橈骨遠位骨端線離断 【関節内骨折、成長障害 それぞれの危険性の理解】			310-312	教科書 筆記用具	
第10回	本試験				筆記用具	
実務経験と本講義との関連について						
本校卒業した柔道整復師・接骨院勤務歴12年。 柔道整復師として施術現場とかかわる柔道整復理論を講義します。 また、本校のOBとして、特に重視するべき点をお伝えいたします。						
メールアドレス						
sumiyoshi@nihonisen.ac.jp						